

活動成果報告書

平成26年度（第18回）「チヨダ地域保健推進賞」

活動テーマ

改正精神保健福祉法を地域精神保健活動の積極的改革に生かすための新たな保健師活動

応募グループ名称及び氏名（グループの場合は代表者名）

兵庫県豊岡健康福祉事務所地域保健課精神保健グループ
代表者：田村 雅代



勤務先：兵庫県豊岡健康福祉事務所（保健所）

所 属：地域保健課

所在地：〒668-0025

兵庫県豊岡市幸町7-11

TEL：0796-26-3672

FAX：0796-24-4410

E-Mail：masayo_tamura@pref.hyogo.lg.jp



◇活動方針

当兵庫県但馬地域は面積2,133.5k㎡と、東京都に匹敵する広大な土地に、人口175,508人と過疎化が進んでいる地域である。また、高齢化（高齢化率31.5%）も進む地域である。精神科病床を有する病院は3機関あり、519人の精神障害者が入院している。その中でも20年以上の入院者が13.7%を占め、兵庫県の平均9.9%と比較し高い状況にある。（※2 平成25年度精神保健福祉資料）

兵庫県では精神障害者が精神科病院から退院し住みなれた地域で生活することを支援する「地域移行・地域定着事業」を推進している。

但馬地域においては平成24年度から相談支援事業所「生活支援センターほおずき」が事業受託し、精神科病院、地域の相談支援事業所、市町、県が構成員の協議会の開催、精神障害者ピアサポーター（以下ピアサポーター）の養成、住民向けの普及啓発等に県健康福祉事務所と協働して取り組んでいる。しかし、平成24年4月～平成26年3月までの地域移行支援給付決定者は0名と具体的な成果に結びついていない。地域移行を推進するにあたり、協議会の構成員である精神科病院との連携、協力体制が不十分な状況であった事は否めない。平成26年4月の精神保健福祉法の改正に伴い医療保護入院者の退院支援委員会の実施等今後は長期入院者を作らないシステムが法で整備された。また、法改正までに入院している精神障害者についても人権擁護の観点から地域移行を利用し退院を促進していくことが必要とされている。

活動成果報告書

精神障害者ピアサポーターは「生活支援センターほおずき」が養成し、25年までに13名が登録し住民や関係者向けの研修会でのスピーカーとして活動しているが、上記の法改正に伴い精神障害者の地域移行の活動において個別支援活動ができるピアサポーターの養成と活動支援が特に必要となった。今年度は健康福祉事務所の協力体制を強化して個別支援活動ができるピアサポーターの養成を行うとともに、精神科病院と地域が円滑に連携できる取り組みを行い、地域移行を推進していく体制をとり、今年度中には10名の地域移行者が生まれることを目標に取り組んでいる。

◇活動内容

- 1) 医療保護入院者の退院状況の把握
- 2) 退院支援委員会への積極的参加
- 3) 精神障害者地域移行・地域定着推進協議会・・・病院、市町、相談支援事業所、健康福祉事務所等の関係機関による協議会
- 4) 精神障害者地域移行・地域定着戦略会議・・・病院、相談支援事業所、健康福祉事務所によるより具体的な検討の場
- 5) ピアサポーターによる院内報告会・・・ピアサポーターが病院に出向き、入院患者や家族・関係者等に地域での生活を語る場
- 6) ピアサポーターの養成、フォローアップ・・・個別支援ができるピアサポーターの養成と資質の向上。
- 7) 先進地のピアサポーターや、相談支援事業所から学ぶため交流会や研修会の実施。

◇これらの成果

- 1) 2) 医療保護入院者の把握、退院支援委員会へ参加している。(13回参加。16事例について検討)医療保護入院者が入院期間が長期化しないような働きかけが出来ている。
- 3) 地域の関係者の精神障害者の地域移行についての理解が深まりネットワークができつつある。
- 4) 月1回定期的に実施することで、タイムリーに具体的な検討が可能となった。平成26年8月～平成27年1月に5回実施し、34事例について検討した。また、相談支援事業所の参加も得られるようになってきた。
- 5) 入院患者が退院後の生活をより具体的にイメージすることができ、精神障害者自身やその家族の退院したい、退院させたいという意欲の高まりや、病院職員の退院にむけて取り組む意識の向上につながっている。全医療機関で毎月1回定期的な実施を働きかけ、平成26年9月以降2医療機関で6回実施し、延べ63名の参加者があった。また、1医療機関では病院職員向けにピアサポーターによる説明会を実施し、14名の参加があり、ピアサポーター活動への理解が促進できた。
- 6) 平成24年度以降養成を行っている。当初は0人だったピアサポーターが現在では10人となり、住民向け研修を実施し効果を上げている。今年は入院患者の個別支援が行えるピアサポーターの養成を実施し、現在4名を養成した。8月以降月1回定期的にフォローを行っている。
- 7) 先進地の取り組みを学ぶため、平成26年「精神障害者ピアサポーター研修会・交流会」を実施した。地域の関係者や当事者69名が参加した。先進地である淡路地域で活動しているピアサポーターと相談支援事業所の障害者相談支援専門員、保健所関係者を招き、日ごろの活動の状況の報告や、交流会をすることにより、今後の活動の参考にすることができた。また、地域関係者については精神障害者の地域移行や地域定着、ピアサポーターについての理解を得る機会となった。

活動成果報告書

8) 精神障害者地域移行申請事例は平成 27 年 1 月現在で 2 事例であるが、それ以外に 6 事例の長期入院の退院につながった。

◇今後の計画

これまでの活動に加え、下記を予定している。

1) ピアサポーターの養成研修会、フォローアップ研修会

- ・現在活動しているピアサポーターは但馬地域の北部に居住している人のみであるため、南部においてもピアサポーターを養成するために講座を実施する。
- ・これまでのピアサポーターの活動内容については、地域や病院内において入院患者や家族・関係者等に地域での生活を語るという活動のみであったが、個別支援ができるようスキルアップを図るための研修会を行う。

2) 高齢者施設関係者への研修会

- ・精神科病院の高齢入院患者が高齢者施設へスムーズに入所が行えるよう、高齢者施設関係者の理解促進のための研修会を実施する。

3) 民生委員を対象とした普及啓発の研修会

- ・精神科病院の長期入院患者が地域で暮らしていくことに対する理解を得るために、民生委員を対象に精神障害や地域移行についての研修会を実施する。

当地域は精神科の長期入院者が多く地域移行が立ち遅れた状況であるが、これまでの活動により少しずつ退院が促進されている。これまでの地域移行の活動が契機となり、ある医療機関では病院における訪問看護を開始するなど地域関係機関の動きも出てきた。ピアサポーターの活動と共に地域関係者や医療機関との連携強化、地域住民の理解を得ながらこれまで以上に精神障害者の地域移行を推進していく。